

令和 6 年度東大阪市地域研究助成金事業
研究成果の今後の活用について

研究テーマ	不登校児童生徒の支援について ～校内教育支援ルームが果たす機能の展望～
担当部署	教育センター

研究概要	不登校児童生徒の支援体制のあり方について校内教育支援ルームの機能向上を目的に研究する。研究方法は、校内教育支援ルームについての実態調査、関わる教職員の共感性、やりがい、メンタルヘルス、指導の効果性などの関係とその向上方法についての介入研究、質問紙調査及びインタビュー調査から構成される。研究結果から校内支援ルームにおける支援機能向上と関わる教職員の育成に関する知見を明らかにする。
研究成果	<ul style="list-style-type: none">・ 不登校支援に関する児童生徒のニーズや教職員の効果的なアプローチについて、フォーカシングのワークを15分程度実施することで共感性が向上することが明らかになった。・ 教員のやりがい、共感性、メンタルヘルスなどの心理的観点と教職員の校内教育支援ルームの指導における効果性などとの関連がモデル化され、今後の校内教育支援ルームの効果的な運営について新たな知見を得ることができた。・ 不登校児童生徒と関係する教職員にとって、必要な態度や資質を向上する方法の効果が明らかになった。・ フォーカシングのワーク実施の効果と、校内教育支援ルームに関する先行研究となった
今後の活用	<ul style="list-style-type: none">・ 教職員の「やりがい」や「負担感」の要因が明らかになったことで、やりがいを高め、また教職員の負担を軽減することで、バーンアウトの未然防止につながると考えられる。学校として校内教育支援ルームの負担感を軽減することで、市全体のSSRの効果的な運営につながると思われる。・ フォーカシングのワークを実施することで共感性が向上するという点から、教職員の自己理解を深めることは、児童生徒に対する関わりに良好な変容があることが分かった。このように、児童生徒との情緒的な関わり方について新たな知見を学校に周知することで、市全体の効果的な不登校支援につながると考えられる。心理的に「安心していただける場所」ができ、児童生徒にとっての「居場所づくり」が校内にできるよう周知を行う。